

	課題分析	授業改善策
1年	○ 自分の言葉で表現することが苦手で順序立てて話すことが難しい。 ○ 自分事として考えることが難しく、考えをもっても表すことが苦手な児童が多い。	○ 自分だったらと考える場面や活動を多く取り入れ、自分の思いや考えをもたせる。 ○ 話型提示を通して、「話す・聞く」のスキルの向上を図る。 ○ 少人数の活動を多く取り入れることで、対話の経験を多く積ませる。
2年	○ 文章の内容と自分の体験を結びつけて解釈し、感想（思い）をもつことが難しい児童が多い。 ○ 聞くことにおいて、話し手が自分に知らせたいことは何か考えながら聞くことが難しい児童が多い。	○ 書き手が述べている事柄を正確に捉えられるように、重要だと考えられる語や文を見付ける活動を全体で丁寧に取り扱う。（色別にラインを引く等） ○ 読書活動において、「自分のおすすめ」として、心に残ったことを一言感想で書かためていく。 ○ 聞き方のスキルを提示し、話し手に意識を集中して聞く経験を積ませる。聞き取った事をメモする活動を取り入れ、話の内容をつかませるようにする。
3年	○ 自分の考えを文章にしてまとめることが苦手な児童が多く、文章が長くなってしまう。 ○ 友達の考えを聞いて、自分の考えを深めようとする姿勢があまり見られない。	○ 自分の考えを書く機会を定期的に設け、新聞づくりや手紙を書く活動を通して、自分の考えを文章にすることに慣れさせる。 ○ 個人活動後に班活動を行い、友達の考えを聞いて意見をもつ習慣を身に付けさせる。
4年	○ 語彙が少ないことにより、読むとき、聞くときに理解できない、話すときに適切な言葉が使えないことがある。 ○ 自分の思いや考えを書いたり話したりすることが難しい児童が多い。	○ 読書したページ数や意味を調べた言葉を掲示し、読書習慣、辞書を引く習慣を付けさせ、語彙数を増やす。 ○ 自分の考えを書いたり、ペアやグループで話したりする活動を多く取り入れる。難しい児童には穴埋めや選択肢を与えるなどする。
5年	○ 自分の伝えたいことを自分の言葉で分かりやすく話すことに苦手意識をもつ児童が多い。 ○ 漢字の定着に個人差が大きい上に、日常生活での活用につながっていないために、語彙が増えていかない。	○ 話したり聞いたりするときのポイントをまとめたカードを提示して、日常的に活用して意識させる。 ○ 漢字の反復練習に留まるのではなく、熟語を集めたり、文中で漢字を使ったりして、日常生活での活用を意識した練習をさせる。辞書を活用し語彙を増やす。
6年	○ 自分の考えに根拠をもって説明、表現して書く力が低い児童が多い。 ○ 日常生活で使える語彙が少なく、文章を正しく読んだり、相手の話を正しく理解しようとしたりする意識が低い児童が多い。	○ 学習内容のまとめや考えた理由などを、自分の言葉で説明し、書く活動を多く取り入れる。 ○ 全校朝会での校長講話の内容を確認する等、学校生活の中で話を聞いている際に意図的に振り返りを実施し、聞く意識を普段から高める。
専科	【図画工作】 ○ 経験や知識を使いながら、感じたことをより深く考えたり表現を広げたりすることが苦手な児童が多い。 【音楽】 ○ 低中学年はお互いの音を聴き合うことが苦手な児童が多い。	【図画工作】 ○ 題材の学びとしての意味や造形的な楽しさを感じるような導入を工夫する。材料や環境を造形的な学びや思考につながるように整える。 【音楽】 ○ 低学年のうちからお互いに関わり合うペア学習や、リズムリレーなどを増やして、友達と関わり合いながら音楽を楽しめる児童を育てる。